

令和3年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞 受賞団体の紹介

★地域づくりのヒントになる活動を収録★



兵庫県 県民生活課
あすの兵庫を創る生活運動協議会

目次

1	あしたのまち・くらしづくり活動賞について	・・・ 1
2	令和3年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞 兵庫県表彰受賞団体	
	【全国振興奨励賞・兵庫県優秀賞】	
	淡路東浦ため池・里海交流保全協議会	・・・ 2
	【兵庫県優秀賞】	
	特定非営利活動法人 Oneself	・・・ 3
	姫路市立白鷺小中学校	・・・ 4
	【兵庫県奨励賞】	
	キタイ設計株式会社	・・・ 5
	東洋食品工業短期大学微生物グループ	・・・ 6
	東洋大学附属姫路高等学校地域活性部 PROJECT TOYO	・・・ 7
	兵庫県立西脇高等学校科学教育類型出前授業班	・・・ 8
3	あすの兵庫を創る生活運動協議会について	・・・ 9

あしたのまち・くらしづくり活動賞について

【目的】

地域が直面しているさまざまな課題を自らの手で解決して、住み良い地域社会の創造をめざし、独自の発想により全国各地で活動に取り組んでいる地域活動団体・企業等のうち、大きな成果を挙げ、先導的な事例として他の参考になる活動を顕彰することにより、地域性豊かな活力に満ちた地域づくり・くらしづくり・ひとづくり活動をより一層普及・推進していくこと。

【主催】

公益財団法人あしたの日本を創る協会 読売新聞東京本社 日本放送協会

【表彰】

全国での表彰に加え、兵庫県では、あすの兵庫を創る生活運動協議会が主体となり、毎年「兵庫県優秀賞」と「兵庫県奨励賞」を数団体ずつ選定して表彰しています。

【賞の歴史】

昭和 61 年 第 1 回「ふるさとづくり賞」

兵庫県からは中央審査会へ推薦するのみ。全国入賞 2 団体、奨励賞 2 3 団体のうち、兵庫県からは「真野まちづくり推進会」が入賞、「垂水区団体スポーツ協会」が奨励賞を受賞。

昭和 62 年 第 2 回「ふるさとづくり賞」

全国の賞と並行して、兵庫県独自の表彰「兵庫県優秀賞」「兵庫県奨励賞」が始まる。

平成 17 年 第 20 回「ふるさとづくり賞」

平成 18 年 現在の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」に名称が変更される。

【表彰式について】

兵庫県表彰の受賞団体については、毎年 11 月に行われる「あすの兵庫を創る生活運動協議会大会」において、表彰式を実施していました。

今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場での開催に替えて、表彰団体の活動を紹介する冊子を作成し、配布しています。

淡路東浦ため池・里海交流保全協議会

【所在地】淡路市久留麻 2205 番地 5 (森漁協内)

【活動開始年】平成 20 年

【メンバー数】150 名

【活動テーマ】

農業者と漁業者の協働による里山里海の保全

【団体連絡先】

TEL : 090-8882-3036

協議会会長 (谷)

E-mail : tani119@hb.tp1.jp (自宅 PC)

令和 3 年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞
全国振興奨励賞・兵庫県優秀賞

【活動の概要】

農村部の過疎化、農業者の高齢化等により、ため池の適正な維持管理が困難になってきているが、平成 20 年度から淡路島北部を中心に、ため池管理者と漁業者が交流・協働してため池の泥流し(かいぼり)による豊かな里山・里海づくりを実施。平成 28 年度までに延べ 43 回、2,015 人が参加、淡路島内で取組が広まってきている。農業者と漁業者の協働に加え大学や高校の生徒や民間団体も参画し作業を行い、ため池の保全と里海の再生を図っている。



令和元年度 路谷池 かいぼり風景



路谷池で捕獲した大きな鯉

活動紹介

温暖で雨が少ない瀬戸内海式気候の淡路島では、古来ため池を築造し、農業用水に利用してきた。島内には、全国のため池の 1 割となる約 1 万カ所のため池があるが、これらの管理には、多大な労力が必要で、過疎化や農業者の高齢化が進む淡路島では、適正な維持管理が困難となり、災害時に決壊するため池も発生した。また漁業では、下水処理場の建設が進んで海がきれいになった結果、海の栄養塩が減り、ノリの漁獲量の低下や色落ちによる商品価値の低下が深刻な問題となっている。

こうしたことから農業者と漁業者が、窒素などの栄養塩を豊富に含んだため池の泥を海に流す「かいぼり(泥流し)」作業に協働で取組んでいる。平成 19 年に農業用ダム浚渫の際に水を放流したところ、良質の海苔が収穫されたことから、平成 20 年から漁業者と農業者が協働でかいぼりを開始。平成 22 年 11 月に「浦川地域ため池・里海交流保全協議会」を設立し、定期的に活動を開始した。

現在では、当協議会構成団体は①河内地区ため池協議会、②小田地区ため池協議会、③森漁業協同組合、④仮屋漁業協同組合、⑤かいぼり実施ため池管理者の各団体の他、淡路島内では兵庫県淡路県民局、淡路市、大学生(神戸大学・龍谷大学・吉備国際大学等)、兵庫県立淡路景観園芸学校、洲本高校、コープこうべ、淡路信用金庫等を含め、約 300 である。

淡路島の「かいぼり」を主題とした「種まく旅人 くにうみの郷」が撮影され、平成 27 年 5 月から全国で上映され、「淡路島の農漁業」の魅力が全国的に注目され、地域の活性化につながっている。

今後については、毎年を取組を評価・検証し、活動内容の充実・強化を図る一方、多様な主体がゆるやかなネットワークを広げていく、息の長い取組を目指す。また、未来を担う子ども達にため池の役割を伝え、ふるさと意識の醸成と農漁業の担い手育成を進める予定である。

【団体所在地】 神戸市兵庫区

【活動開始年】 平成26年

【メンバー数】 20名

【活動テーマ】

「共に生きる」ための種まき

【団体連絡先】

TEL : 078-224-5247



ごみの捨て方指導の様子

【活動の概要】

「国際シェアハウスやどかり」は長期・短期留学生に、安心して安全な住環境の提供を目的に2015年7月にオープンした約800㎡の大型シェアハウスで日本語学習教室も併設。またシェアハウスを拠点とし日本で生活するための知識の教授、留学生の健康管理、地域交流、自身のルーツを強みにする活動などを行っている。コロナ禍においては食料品提供を延べ100名以上の留学生や技能実習生に行った。



留学生の母国紹介「ブータンってどんな国!？」

活動紹介

〈生活サポート〉

来日間もない留学生や技能実習生を対象に神戸市のごみ捨てルールを指導している。また防災知識を楽しく学べるイベント「防災運動会」を定期的に開催し、ハザードマップの見方や消火器の使い方、AEDの使い方を指導している。

〈からだところのサポート〉

母国で衛生指導を経験したことがない留学生も多いため大学と連携し「しんかいち国際保健室」を週に1回開催。英語等でも問診ができ病院に行く前に気軽に健康相談できる場としている。また栄養学、感染症予防、性教育をテーマとしたワークショップや講義も実施。その他生理痛緩和ヨガや虫歯チェック、ところの相談等を無料でやっている。

〈ルーツを強みにする〉

留学生の多くは日本の生活でなかなか地域住民と交流する機会がないことから、留学生が母国の文化を紹介するイベントを定期的に実施。交流会は日本語で行い日本語力向上とコミュニケーション力を磨く。

また旅館業法を取得し旅行者も受け入れている。その際は留学生がスタッフとなり近隣施設の紹介や神戸の紹介をしている。日本人スタッフではなく留学生がスタッフとして活動することで自身の言語を生かすことができる。特に2019年ワールドカップラグビーでは兵庫区にあるノエビアスタジアムで試合があったことから、アメリカやロシア等、多くのサポーターがシェアハウスに滞在した。この際もスタジアムまでの行き方や飲食ができる場所等を留学生スタッフが案内し、普段日本語学校では交流できない国の方々と話せることにとっても喜んでいて、こうして留学生や技能実習生が自身のルーツを強みにし地域社会に参画することで多文化共生の実現を目指している。

姫路市立白鷺小中学校

令和3年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞
兵庫県優秀賞

- 【団体所在地】 姫路市
【活動開始年】 平成30年
【メンバー数】 1,000名

【活動テーマ】

姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業

【団体連絡先】

TEL : 079-222-5588

【活動の概要】

世界文化遺産 国宝 姫路城の中曲輪において、姫路城や地域の歴史や文化とも深いつながりのある市蝶ジャコウアゲハを中心としたバタフライガーデンを創造する。かつて400年前の姫路城の築城当時には、お城の周辺を蝶が飛び交っていたと言われている。そこでコミュニティ・スクールでもある白鷺小中学校と地域が協働することで、蝶の飛び交う城下の再現に挑戦することになった。2021年4月食草や蜜源植物を植栽する活動の成果があらわれてきて、学校の周辺をジャコウアゲハが飛び交い始めている。



姫路市立美術館で植栽する児童



姫路城を背にクラウドファンディングへの支援を呼び掛ける児童たち

活動紹介

市蝶のジャコウアゲハを地域によみがえらせる

姫路市立白鷺(はくろ)小中学校は世界文化遺産・国宝姫路城の内堀と中堀の間、中曲輪(なかくるわ)に位置する姫路城の眼前にある学校です。姫路市の市蝶にもなっているジャコウアゲハは、姫路城を築城した池田輝政の家紋が「揚羽蝶」であったことや、地元ではジャコウアゲハの蛹(さなぎ)が「播州皿屋敷」の悲劇のヒロインお菊さんに似ていることから「お菊虫」とよばれるなど姫路にゆかりの深い蝶です。都心部に位置する白鷺小中学校は白鷺小、白鷺中が統合され、2018年4月に小中一貫校として新設された義務教育学校です。同時にコミュニティ・スクールとして白鷺学校運営協議会が活動を本格化させました。活動内容を検討する中で、「せっかくなら児童たちが栽培する兵庫の絶滅危惧種でもあるウマノスズクサを本格的に育て、姫路城の眼前にジャコウアゲハの飛び交う400年前の風景を再現しよう!!」と職員が発案し、『姫路城中曲輪バタフライガーデンプロジェクト』が始まりました。

地域の人や企業と協働で蝶の食草スポットを設置

3年生による「ジャコウアゲハ応援隊」が発足し、総合的な学習の時間を活用して、専門家の姫路ジャコウアゲハ倶楽部さんから指導を受けて、食草と蜜源植物を植えるところから活動がスタートしました。現在は食草数を増やし、蝶が自然と増える環境づくりを行っています。姫路城周辺にも蝶が舞ってほしいとの思いから、中曲輪(姫路市本町)にある学校・企業・行政機関など30以上の諸団体や姫路駅周辺にある企業ともコラボしています。ジャコウアゲハの個体数が増えることで、蝶の生態観察が行える新たな観光資源への発展も視野に入ってきました。

教育・環境・地域と協働した活動が評価される

SDGsの理念が評価され、2019年度(公財)都市緑化機構『第30回環境プラン大賞コミュニティ大賞』、2020年度(公財)博報堂教育財団『第51回博報賞』、(公財)安藤スポーツ食文化振興財団『トムソーヤ企画コンテスト努力賞』、兵庫県『グリーンスクール表彰』を受賞しました。

また兵庫県の『ひょうごの生物多様性保全プロジェクト』にも選定されました。

【団体所在地】 姫路市
【活動開始年】 昭和26年
【メンバー数】 204名

【活動テーマ】
「里山孝行」による創造的な恩返しへ

【団体連絡先】
TEL : 079-267-0456

【活動の概要】

弊社は、ほ場整備等の土地改良事業を中心に、里山地域の発展に貢献する社会的使命を果たすことで、地域に認められ育てられてきました。そんな育て親とも呼べる里山地域に元気がない現状を受け、「恩返しをしたい」。阪神淡路大震災から生まれた創造的復興の考えに基づき「里山孝行」の活動を始めました。「里山孝行」による創造的な恩返しは、まちなかの人を巻き込みながら様々な交流活動を展開し、いまでは里山地域をワガコト化する「みどりの恩送り」となっています。



はりまホッププロジェクト 収穫後の様子



里山サバイバルクラブ 森の秘密基地づくり

活動紹介

里山地域を元気にするために、交流促進や魅力発信、関係人口の増加に向けた「みどりのワガコト化デザイナー」の専門的なノウハウを確立し、まちなかの人を巻き込みながら活動を展開しています。以下は代表的な活動です。

① 【里山での自然体験から子供たちの感性を養う】里山サバイバルクラブ

この活動は、まちなかの子どもたちが、里山での自然体験を通じて、感性を養うための社会貢献活動です。具体的には、植物や水生動物・昆虫について学ぶ企画の運営や、農地や森での体験学習・忍者体験・収穫と販売体験の運営、ゲーム感覚で行う書評会運営、小学校や幼稚園への講師派遣を行っています。活動にあたって、学習指導要領を踏まえ、アクティブラーニングで、子どもの「気づきや学び」を重視し、主体的、対話的で深い学びを行うことを大事にしています。延べ2,200名の親子や地域住民が様々な活動に参加しています。

② 【里山農家の食材を食卓に】キタイマルシェ

里山地域の野菜を、まちなかで販売することで、里山地域の魅力を知ってもらうことを目的に運営しています。活動では、黒大豆枝豆や姫路れんこんなど、播磨地域の新鮮な里山野菜を販売しています。

③ 【みどりを通じたコミュニティづくり】はりまグリーンラボ

はりまグリーンラボは、様々なみどりを広める活動を社会実験することで、みどりの仲間をつくり、地域に愛着をもつ人口を増やし、地域を元気にすることを目的に活動しています。中でも、はりまホッププロジェクトは、ビールの主原料であるホップを、耕作放棄地の増える里山やまちなかで育て、里山とまちなかとの交流促進や地域課題の解決に貢献することを目的に活動しています。これまでに550苗のホップが播磨地域に広まり、約6,000本のビールをクラウドファンディングで集まった約200万円の寄付金で、参加者とともに製作しています。

こういった活動は全て、自社で策定したキタイSDGsプランに基づいており、これまでの里山孝行の活動が、多くのネットワークを形成し、里山地域をワガコト化する「みどりの恩送り」となっています。今後も社会貢献活動により、継続して「みどりの恩送り」を行い、SDGsの視点から大阪・関西万博2025までに、里山の創造的復興を果たすモデルとなれるよう、地域に根差した里山孝行企業として活動してまいります。

【団体所在地】 川西市

【活動開始年】 平成28年

【メンバー数】 4名

【活動テーマ】

かがくであそぶ・あそびでまなぶ
-子どもも大人も学べる場-

【団体連絡先】

TEL : 072-759-4221

【活動の概要】

私たちは2016年から体験型学習、「科学あそび」を立案・実践している。園児から大人まであらゆる世代の地域住民を対象に、保育園、児童館、小学校、大学、公益施設などで年間8回程度活動している。大学教員という背景を活かして専門知識を提供し、顕微鏡などの専門設備を用いることも特徴の1つである。また身近なテーマ設定で、対象者に合わせたプログラムを構築し、参加者の「もっと知りたい！」を引き出す展開を心がけている。活動を積み重ね、地域に根ざした学びの場になることが目標である。



イカの解剖の様子



保育園での活動の様子

活動紹介

2021年度の活動を紹介します。(https://www.facebook.com/kagakudeasobu)

- ① 7月28日(水)・29日(木)、御殿山児童館にて「納豆を調べる」を実施した。参加者は小学3～6年生7名と保護者1名だった。五感を駆使して納豆の特徴を観察したり、納豆菌を顕微鏡で観察した。また納豆作りから納豆菌の働きや特徴について理解を深めた。
- ② 8月5日(木)、公益施設ピピアめふにて「考えよう！食品添加物」を実施した。参加者は小学生とその保護者13組31名だった。ハムを使って食品添加物の有無による違いを観察し、添加物の役割や働きについて考えた。亜硝酸ナトリウムの簡易測定を通じて使用基準など、安全性についても考えた。
- ③ 8月11日(水)・12日(木)、東洋食品工業短期大学「『食べる』を考えるー消化のしくみー」を実施した。参加者は小学生と保護者8組20名だった。ヒトの食べ物の通り道を探り、各器官の働きや特徴を紹介した。消化に関する実験を行い、バランスの良い食事について考えた。またスルメイカを解剖して食べ物の通り道を探り、ヒトとの違いを考えた。
- ④ 8月19日(木)、東洋食品工業短期大学にて「やってみよう！PCRーDNAの構造と増幅方法を学ぶー」を実施した。参加者は10名だった。DNAとは何なのか、PCRとは一体どのような技術なのか、PCR実験を体験しながらDNAの構造やPCRによる増幅方法について理解を深めた。
- ⑤ 8月26日(木)・27日(金)、認定こども園もみの木千里保育園にて「さいきんをさがそう！そだてよう！」を実施した。参加者は5歳児園児29名だった。細菌とは何なのか、細菌を育てるためにはどうすればよいのかを紹介し、園児が「細菌がいるかも！」と考えた場所や物に本当に細菌がいるのか、調べた。また、細菌とヒトとのつながりについても紹介した。
- ⑥ 9月3日(金)・6日(月)、猪名川町立松尾台小学校にて特別授業「手洗いを考える」を実施した。参加者は1年生49名だった。9月8日(水)・9日(木)には、猪名川町立松尾台幼稚園にて「手洗いを考える」を実施した。参加者は年中・年長園児15名だった。手洗い前後・消毒後の手のひらに付着する細菌を培養し、手洗いの効果や大切さについて考えた。
- ⑦ 2022年1月17日(月)・22日(土)、公益施設ピピアめふにて「防災を考える、防災食を知る」を実施予定である。「もしも」の時、何ができなくなって何が必要になるのかを考え、防災食の試食や、保存食の特徴について紹介する。

東洋大学附属姫路高等学校 地域活性部 PROJECT TOYO

令和3年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞
兵庫県奨励賞

【団体所在地】 姫路市
【活動開始年】 令和元年
【メンバー数】 28名

【活動テーマ】
大地と命の有効活動による持続型社会づくり

【団体連絡先】
TEL : 079-266-2626

【活動の概要】

過疎離農が進む地域の耕作放棄地を借り、地域の伝統野菜を復活させ、収穫した野菜で特産品作りを行った。また、鹿による作物被害が増えている問題の解決に向け、捕獲した鹿の食肉で商品開発をし、貴重な地域資源として有効利用した。SDGSの実現に向け、鹿の適切な利用方法を提案し、自然活用型社会を目指した。野菜栽培や食品開発、販売の中で、地域の様々な方々との交流が生まれ、地域の活性化と高校生の地域愛の育成に役立った。



新商品、ジェラート完成！



育てた大根、幼稚園児と収穫祭

活動紹介

私たちは、持続可能な社会の実現と地域の住環境の保全や活性化、高校生の地域愛の育成のために、まず、耕作放棄地を借りて野菜作りを始めました。すると、地元の方々が、声掛けやご指導をして下さるようになりました。苦労はありましたが、地元の園児70人と大根の収穫体験をする際には大きな達成感を得ることができました。さらに、地元の企業の方々の協力を得て、収穫した姫路若菜と大根を使った地産地消の姫路ならではの缶詰3種類を商品開発しました。マスコミにも大きく取り上げられ話題になり、販売も好調です。姫路の幻の伝統野菜である姫路若菜が脚光を浴びることにもなりました。

活動2年目は、耕作放棄地の持ち主が野菜作りを再開したり、放棄地を借りて農作物の栽培を新たにすることが増え、活性化も進みました。しかし、この年は生徒が植えた苺は、コロナによる休校のため収穫できず、採れたての苺を食べることはできませんでした。そこで、冷凍保存し加工品にするを考えました。苺をたっぷり使い、兵庫県産の材料に拘ったジェラート2種類です。発表後2週間で400個完売となりました。引き続き孫苗を育て、今春も販売しています。また、農作物を栽培する中で、最近害獣による被害が増していることを知りました。何かできないかと考え、害獣に関する知識を身につけ、獣害に強い地域作りを目指したいと考えました。地元の鹿肉工房で解体体験をする中で、鹿が今ジビエ料理として注目されていることに着目し、加工品作りを行いました。臭みの無いおいしい2種類の缶詰が出来ました。山中で季節の恵みを受け、成長している鹿は安全な天然食材であり、高たんぱく、低脂肪で脂肪酸の組織が魚に近く、鉄分も豊富であるうえに、肉類で最も栄養価が高い肉です。鹿肉の価値を発信し、自然活用型社会を目指します。

このような商品開発や販売、他業種の方々との連携をすることで、生徒たちがビジネスプランを考えることが出来るようになりました。また、世代間交流をしたことで、高校生の地元を愛する心を育てることもできました。これからも、地産地消の地元ならではの商品を開発し、6次産業化をめざしていきたいと考えています。持続可能な社会を目指すために地域資源を生かす企画を提案していき、地域の課題に関心を持ち、地域の人々と助け合う精神をさらに発展させ、書写地区の魅力を積極的に学び発信していきたいと思えます。

兵庫県立西脇高等学校 科学教育類型 出前授業班

令和3年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞 兵庫県奨励賞

【団体所在地】 西脇市
【活動開始年】 令和元年
【メンバー数】 30名

【活動テーマ】
地域の小中学校との理科教育の連携事業

【団体連絡先】
TEL : 0795-22-3566

【活動の概要】

地域の小中学校にて、高校生が教師役となって授業を行い、実験を通して小中学生に理科を身近に感じてもらい、興味を持ってもらうことを目指した。教員を志す本校生徒が、小中学校の教員や教頭、校長に直接提案し、授業案を作成し、実際に教壇に立って授業を行うことで、高校生の自己表現の場の創出や自校肯定感の涵養を目指した。
令和元年度：小学校8コマの授業を実施。
令和2年度：小中学校4校に提案、5コマ実施。
地域の公的施設にてポスター展示1.5か月間。



小学校にて教員と校長先生へ提案中



出前授業、ポスター展示、実験動画

活動紹介

出前授業：令和元年度に教職を目指す高校1年生4名が中心となって、本活動を開始した。まず夏季に小学校を訪問して管理職と理科担当教員に直接出前授業を提案し、3年生と4年生の計8クラスで実施することとなった。内容はただの実験体験ではなく、小学生にとって気づきのある“授業”となるよう心がけた。並行して、教師役となる高校生を本校から募り、この年は合計約20名の高校生が教壇に立つことになった。教師役の高校生は事前に模擬授業を行い、流れや資料の伝え方、安全のために注意すべき点などを確認した。翌年1月末～2月の4日間に分けて小学校8クラス計276名に対して「レモン電池をつくろう」と題して授業を行った。当日の様子が神戸新聞にも掲載された。

令和2年度は、7～9月に市内の小中学校4校に訪問し提案を行った。その結果、小学校2校、計11クラスで「レモン電池を作ろう」を、中学校1校2クラスで「紫キャベツの試験液」の出前授業を行うこととなった。しかし、11月の時点では実施が困難な見通しであったため、オンラインでも実施できる準備を考え、実験動画の教材を撮影しアップロードした。

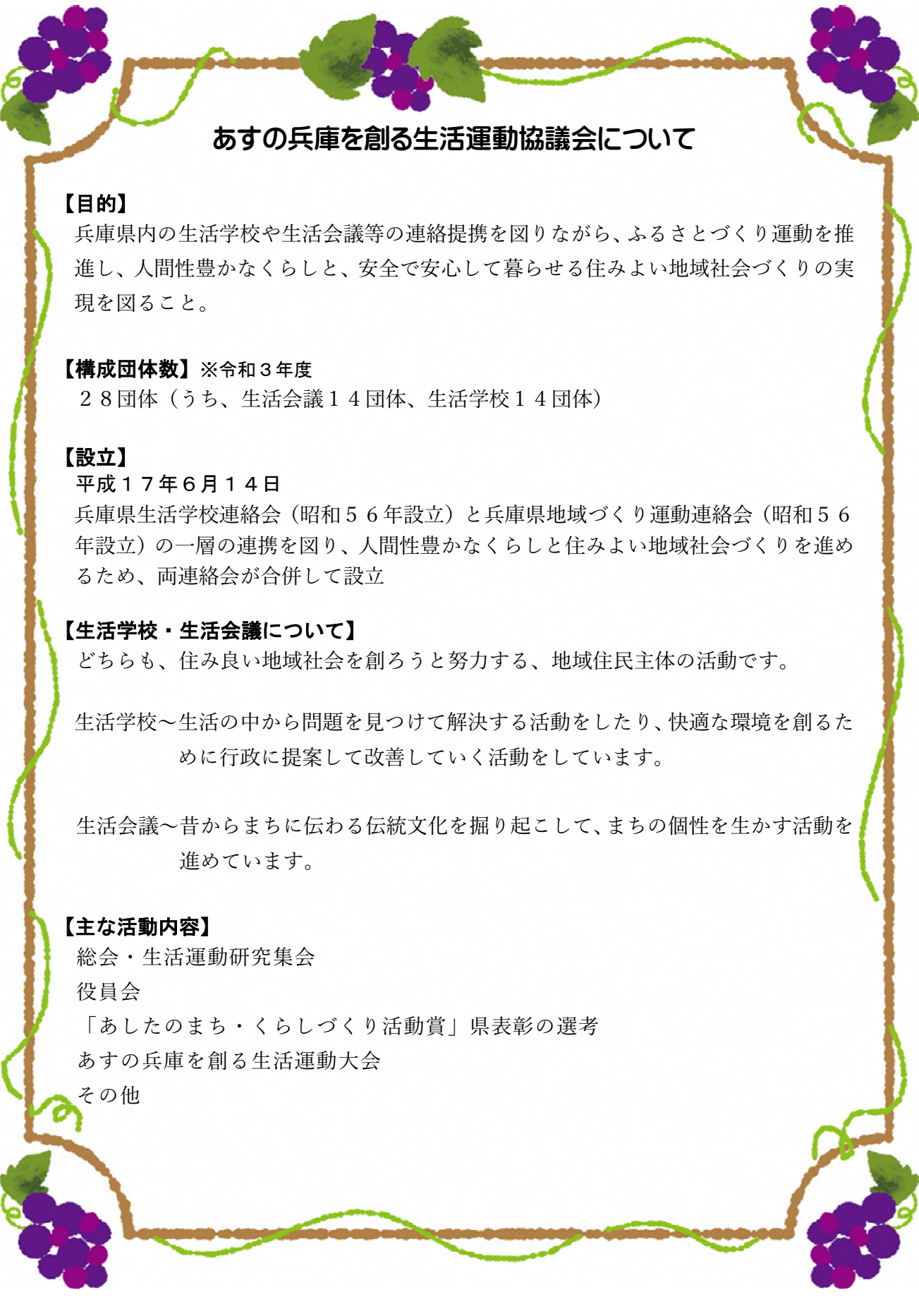
緊急事態宣言が解除後すぐに動けるよう各校と調整を進めていた。2月末に学校行事の間を縫うように日時を設定し、本校生徒約10名が教師役となり、重春小学校で3年生5クラスの前で教壇に立って出前授業を行うことができた。また昼休みには小学生と一緒に“ドロケイ”をして、汗だくになった。

ポスター展示：より多くの市民に知っていただくため、西脇市茜が丘複合施設 Miraie にて12月と2月の計1.5か月間ポスター展示を行った。その際、上記の実験動画のQRコードを記載したプリントを配布した。また、実験キット（電子オルゴール、亜鉛版、銅板）の希望者プレゼントも企画したところ、5～16歳の14名が持ち帰った。

アンケート：令和元年度の児童276名、および令和2年度の児童144名の各アンケート項目の「はい」の割合を以下に記載する。

小学生向けアンケート項目	令和元年度	令和2年度
授業は楽しかったか	97%	99%
果物電池の仕組みがわかったか	95%	99%
高校生にまた授業をしてもらいたいのか	98%	100%

この結果から、小学生の理科に対する興味・関心に良い影響を与えることができたと考えている。また、教師役の高校生が書いたアンケートでは、全員が有意義であったとする内容であり、高校生にも良い影響があったと実感している。今後も小中学校と本校とが共に活動できればと願っている。



あすの兵庫を創る生活運動協議会について

【目的】

兵庫県内の生活学校や生活会議等の連絡提携を図りながら、ふるさとづくり運動を推進し、人間性豊かなくらしと、安全で安心して暮らせる住みよい地域社会づくりの実現を図ること。

【構成団体数】 ※令和3年度

28団体（うち、生活会議14団体、生活学校14団体）

【設立】

平成17年6月14日

兵庫県生活学校連絡会（昭和56年設立）と兵庫県地域づくり運動連絡会（昭和56年設立）の一層の連携を図り、人間性豊かなくらしと住みよい地域社会づくりを進めるため、両連絡会が合併して設立

【生活学校・生活会議について】

どちらも、住み良い地域社会を創ろうと努力する、地域住民主体の活動です。

生活学校～生活の中から問題を見つけて解決する活動をしたり、快適な環境を創るために行政に提案して改善していく活動をしています。

生活会議～昔からまちに伝わる伝統文化を掘り起こして、まちの個性を生かす活動を進めています。

【主な活動内容】

総会・生活運動研究集会

役員会

「あしたのまち・くらしづくり活動賞」県表彰の選考

あすの兵庫を創る生活運動大会

その他

「あしたのまち・くらしづくり活動賞」

地域が直面する様々な課題を自らの手で解決して、住み良い地域社会の創造をめざし、独自の発想により活動に取り組んでいる地域団体等の活動の経験や知恵などのストーリーを公募し、表彰しています。

【令和3年度 全国表彰】

- ・内閣総理大臣賞 1件
- ・内閣官房長官賞 1件
- ・総務大臣賞 1件
- ・主催者賞 5件
- ・振興奨励賞 20件

【令和3年度 兵庫県表彰】

- ・優秀賞 3件
- ・奨励賞 4件

〔発行〕あすの兵庫を創る生活運動協議会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
兵庫県県民生活課内
TEL : 078-362-3136
FAX : 078-362-3908

令和3年10月発行